



関西医科大学附属病院
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

病院案内 2023



沿革

平成 18 (2006) 年 1 月	関西医科大学附属枚方病院開院 特定機能病院に指定	平成 30 (2018) 年 4 月	日本医療機能評価機構認定病院に認定 がんゲノム医療連携病院に指定
平成 18 (2006) 年 3 月	総合周産期母子医療センターに指定	平成 30 (2018) 年 6 月	大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定
平成 18 (2006) 年 10 月	大阪府災害拠点病院に指定	平成 30 (2018) 年 11 月	大阪府難病診療連携拠点病院に指定
平成 20 (2008) 年 2 月	第 3 次救命救急センターに指定	令和 元 (2019) 年 5 月	大阪府外国人患者受入地域拠点医療機関に認定
平成 21 (2009) 年 4 月	大阪府がん診療拠点病院に指定	令和 元 (2019) 年 6 月	地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク設立
平成 22 (2010) 年 4 月	地域がん診療連携拠点病院に指定	令和 2 (2020) 年 4 月	看護師特定行為研修指定機関に指定
平成 24 (2012) 年 5 月	高度救命救急センターに指定	令和 4 (2022) 年 6 月	関医タワーホテル開業
平成 25 (2013) 年 4 月	病院隣地に関西医科大学枚方学舎が開設		
平成 25 (2013) 年 6 月	大阪府エイズ治療拠点病院に指定		
平成 25 (2013) 年 8 月	臨床検査部 ISO15189 認定		
平成 28 (2016) 年 4 月	病院名を「関西医科大学附属病院」に変更		

INDEX

ページ 項目

1	沿革
3	病院長挨拶
4	病院理念
5	附属医療機関・施設
6	附属病院の機能
7	最近のデータで見る附属病院
9	診断と治療の推進
11	がん治療
13	低侵襲治療と機能温存
15	ロボット支援手術
16	救急医療
17	脳ドック
18	タワーホテル
19	看護について
20	特定看護師
21	快適な療養環境
22	介護・福祉部門
23	医療人育成について
24	地域医療連携
25	診療部科長・診療内容のご紹介
38	附属病院概要
39	施設紹介
40	院内アメニティ
41	フロアマップ
43	アクセス



関西医科大学附属病院 病院案内

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL GUIDE



関西医科大学附属病院は平成 18 年 1 月、大阪府枚方市に開院しました。特定機能病院、高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院などに指定され、北河内医療圏の中核病院として重要な役割を担っています。

京阪電車枚方市駅から徒歩約 3 分という交通の利便性と、淀川河川公園の水辺環境を活かした緑豊かな療養環境を備え、31,612㎡の敷地に延床面積 71,851㎡のゆとりある施設を備えています。

慈しみ、めぐみ、愛の心で、 安全で安心、最適な医療を行います

関西医科大学附属病院

病院長 松田 公志

本院は、北河内2次医療圏内唯一の特定機能病院、総合周産期母子医療センター、がん診療拠点病院、がんゲノム医療連携病院、大阪府アレルギー疾患拠点病院、大阪府難病診療拠点病院であり、地域の医療のかなめとして、47の高度に専門化された診療科と、ハートセンターや脳卒中センターなど異なる専門家が協力して集学的治療・診断にあたる7つのセンターを持ち、最先端かつ個々の患者さんに最適の診療を提供しています。また、高度救命救急センターを擁し三次救急医療体制を敷くとともに、大阪府災害拠点病院でもあり、救急および災害医療にも万全の体制を整えています。

本院の目標は、関西医科大学の建学の精神である「慈仁心鏡」すなわち慈しみ・めぐみ・愛を全職員が心の規範とし、安全であたたかい、患者さんに寄り添った最善の医療を提供することです。2次医療圏の医療の最後の砦として「ことわらない病院」をモットーに掲げるとともに、診療においては医療倫理に基づいて患者さんの尊厳と自由意志を尊重します。また、患者さんおよび患者さん家族専用の関医タワーホテルを病院敷地内の関医タワー内に設置し、遠方から受診する患者さんや長時間の外来診療後の患者などにも受診しやすい体制を整えるとともに、病室テレビの無料化など療養環境の改善にも注力しています。

本院は大学病院、特定機能病院として、新しい治療法や最新の医療機器を導入し、最先端の医療を提供するとともに、よりよい新規医療の開発を行っています。手術部には手術支援ロボットや脊椎手術ロボットのほかハイブリッド手術室を設置し、より正確で精密な各種手術を実施するほか、第5のがん治療として注目されている光免疫療法についてもセンターを設置し開発を推進しています。

本院は、北河内地区の基幹病院として多くの医療機関と連携するとともに、地域医療連携推進法人「北河内メディカルネットワーク」の中心病院として、地域包括医療システムの構築に寄与しています。また、介護福祉部門としてディケアセンター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を持ち、急性期から慢性期までシームレスな医療を提供しています。

大学附属の医育機関として、本院は、本学医学部、看護学部、リハビリテーション学部などの卒前学生教育とともに、医師、看護師の卒後教育にも全力で取り組んでいます。看護師の特定行為研修指定機関でもあり、多数の特定看護師の育成を行い、医師、薬剤師とともに共通の規範のもとにこれまで以上に高いレベルでの患者中心のチーム医療を推進します。

本院は今後も、感染対策を含め安全で安心、個々の患者さんに最適な医療の実施に、職員一同全力で取り組んでまいります。



病院理念

慈仁（めぐみ）を心の鏡とした、安全であたたかい医療を提供します。

基本方針

1. 患者の意思を尊重し、個々の患者に最適な医療を行います。
2. 感染対策に注力し、安全な医療に最善を尽くします。
3. 医療人の責任と自覚を持って、チーム医療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域社会に貢献します。
5. 先進的な医学研究にとりくみ、最新の医療を提供します。
6. 医育機関として人間性ゆたかな優れた医療人を育成します。

患者の権利

1. 人としての尊厳が守られ、思いやりのあるあたたかい医療を受ける権利を有します。
2. プライバシーが尊重される権利を有します。
3. 安全に配慮した医療を受ける権利を有します。
4. 医師・医療者から十分な説明を受け、自己の選択に基づく医療を受ける権利を有します。
5. 医療に関する疑問点を尋ねたり相談する権利を有します。
6. 診療録の閲覧や、他の医療機関の医師の意見を聞く権利を有します。
7. 快適な環境で医療を受ける権利を有します。
8. 医療費と医療の公的援助に関する情報を受ける権利を有します。

こども憲章

当院はこども憲章についてWEBサイト等で啓発し、これを守ります。

鏡心仁慈

本院は、関西医科大学の建学の精神である「慈仁心鏡」、すなわち慈仁（めぐみ）を心の鏡とした「安全で安心の医療」を基本姿勢とします。

関西医科大学の 附属医療 機関・施設



関西医科大学の「健康沿線®」

関西医科大学は、枚方市駅に近接する大学学舎、附属病院をはじめ、京阪電車沿線に4つの病院と1つのクリニック、健康・健診センターそして牧野キャンパスを設置しています。このネットワークを健康沿線®と称し、地域住民の医療・福祉に寄与しています。

診療部 47 診療科	集学的治療・診断部 7 部門	中央診療施設部 20 部門	病院長直轄部門 9 部門
看護管理部 7 部門	診療支援部 3 部門	介護福祉部 3 部門	

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL 附属病院の機能



学校法人関西医科大学の6つの附属医療機関の本院として、多様な機能をそろえています。地域の医療機関と定期的なカンファレンスなどを通じて密接につながっており、地域全体で医療を提供する体制づくりを推進しています。また大学枚方キャンパスが隣接し、病院内に卒後臨床研修センターを設置、他大学などからの実習生も積極的に受け入れるなど、教育機関としての役割も果たしています。

医療機関としての主要な指定			
特定機能病院			
基幹型臨床研修病院	地域がん診療 連携拠点病院	高度救命 救急センター	総合周産期母子 医療センター
大阪府アレルギー 疾患医療拠点病院	がんゲノム医療 連携病院	大阪府難病診療 連携拠点病院	災害拠点病院



最近の データでみる 附属病院

令和4年度各種データ

	診療科数	47	科
	病床数	751	床
	— 無菌室	14	床
	— 集中治療室	53	床
	— ICU	8	床
	— CCU	12	床
	— NICU	12	床
	— MFICU	9	床
	— GICU	12	床

 手術室数 **19** 室

 年間手術件数 **12,360** 件

入院手術：11,386 件 外来手術：974 件

麻酔科管理手術：7,414 件


当院で実施可能な先進医療


- S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法
- 切除可能幹細胞がんに対する陽子線治療と外科的切除 (当院は外科的切除を担当)
- 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん
- 遺伝子組換え活性化型血液凝固第VII因子製剤静脈内投与療法
- 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術および十二指腸空腸バイパス術
- 子宮内膜受容能検査
- 子宮内細菌叢検査
- ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)
- 細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)
- 二段階胚移植術

附属病院に関するさまざまな数字をご紹介します。
特定機能病院である附属病院は先進医療を行うことが認められており、診療だけでなく、新しい技術の開発や研究の推進なども行われています。


 1日平均外来患者数 **2,224.2** 人
年間延患者数：600,524 人 年間新患者数：55,241 人

 1日平均入院患者数 **733.5** 人
年間延患者数：267,724 人 年間新患者数：23,045 人

 年間救命救急センター
受入れ患者数 **4,172** 人

 年間ドクターカー
出動件数 **423** 件

 年間分娩件数 **872** 件

 年間無痛分娩実施数
(硬膜外鎮痛) **214** 件

 紹介率 (診療報酬上) **73.2** % 連携医療機関数 **311** 機関

 逆紹介率 (新基準) **37.9** ‰ 登録医件数 **1,609** 件

がん地域連携パス
連携保険医療機関数

胃がん	160 機関	乳がん	167 機関	肝臓がん	138 機関
大腸がん	132 機関	肺がん	111 機関	胆膵がん	95 機関

 医師	441 人	臨床・衛生検査技師	69 人
看護師等	919 人	理学・作業療法士	43 人
薬剤師	65 人	事務職員	90 人
診療放射線技師等	47 人	その他含め合計	1,756 人

※職員数：令和5年6月1日現在

 年間新規治験受託件数 **28** 件





多診療科が協力して行う診断と治療の推進

診療科や職種、分野・領域の垣根を越えて患者さん一人ひとりの疾患に合わせた最適な医療を提供すべく、センター化を進めています。各センターでは医師・看護師・コメディカルが連携し、チーム医療を行っています。

中央診療施設部 Central Clinical Facilities Departments

集学的治療・診断部 Intensive Care/Diagnostic Department

がんセンター Cancer Treatment Center

がん治療の推進とともに、治療成績の向上を目的とした組織で、外来には35床の治療ベッドがあります。

【がんゲノム医療部門】 [Cancer Genome Medical Division]

臨床検査医学センターや臨床遺伝センターと相互に連携しながらがん遺伝子パネル検査を実施しています。

緩和ケアセンター Palliative Care Center

院内全体の緩和ケアに関する診療活動と、緩和ケアを通して地域医療機関との連携を推進する役割を担っています。

術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター intraoperative brain,spinal cord,nerve monitoring center

各種外科手術の際の神経損傷の発生をできる限り低減させるために脳・脊髄・神経の術中モニタリングを施行します。

ハートセンター Heart Center

12床の冠動脈疾患集中治療室を設置。心筋梗塞や不整脈、心不全の治療にも迅速に対応します。

脳卒中センター Stroke Center

脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）や一過性脳虚血発作などに24時間体制で対応します。

光免疫療法センター Photoimmunotherapy Center

“第5のがん治療法”として注目を集める全く新しいがん治療戦略“光免疫療法”を実施するための部門です。

総合周産期母子医療センター General Perinatal Care Center

大阪府内6つの総合周産期母子医療センターのひとつとして、北河内地区における周産期医療の拠点となっています。

生殖医療センター Reproductive Medical Center

一般不妊治療から高度生殖補助医療まで、女性診療科と泌尿器外科の医師や胚培養士、専門看護師がサポートします。

ロボット手術推進センター Robotic Surgery Promotion Center

各科のロボット支援手術が安全に、スムーズに導入・維持されるのを推進・支援していく部門です。

小児医療センター Pediatric Medical Center

小児医療のスペシャリストがチームで15歳未満の子どもを診療。保育士がいるプレイコーナーや、院内学級も設置しています。

アレルギーセンター Allergy Center

各領域のアレルギー専門医が集まり、診療科や組織の垣根を越えて幅広く連携し、診療と啓蒙に取り組みます。

高度救命救急センター Advanced Emergency and Critical Care Center

365日24時間体制を整え、災害時には災害拠点、広域搬送拠点としての役割も果たしています。

総合リハビリテーションセンター Comprehensive Rehabilitation Center

早期離床を目指し、多職種が連携してリハビリテーション治療を提供。他では珍しい三次元動作解析も実施しています。

健康科学センター Health Sciences Center

心臓リハビリ、禁煙・肥満外来などの治療や予防、トレーニング管理、スポーツ医学の臨床応用研究を行っています。

歯科・口腔外科・口腔ケアセンター Dentistry and Oral Surgery and Care Center

専門的な周術期口腔機能管理を積極的に行うとともに、口腔外科疾患の診療や手術にも力を入れています。

難病センター Intractable Diseases Center

病院内外の各領域の医師と連携し、早期診断と適切な治療により、生活の質を向上させる体制作りに努めています。

【潰瘍性大腸炎・クローン病部門】 [Ulcerative Colitis / Crohn's Disease Department]

症状を改善させるだけでなく、専門医により患者さんの生活の質を向上させるための診療を提供します。

臨床遺伝センター Clinical Genetics Center

遺伝学的検査を行う患者さんの、検査のメリットやデメリット、活用法などの相談に認定遺伝カウンセラーが応じています。

内視鏡センター Endoscopy Center

上・下部消化管疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患および呼吸器疾患に対して内視鏡を用いた診療を行っています。

臨床検査医学センター Clinical Laboratory Medicine Center

診断のために欠かすことのできない要素である臨床検査を正確に、迅速に、安全に実施し、先進医療を支えています。

腎センター Kidney Center

全ての腎疾患に対処。移植患者会を開催するなど、腎移植にも注力しています。

痛みセンター Pain Center

難治性の慢性的痛みに対して、多職種によるチームで連携し、心身の両面からのアプローチで対応します。

がん治療

知識と技術を駆使し
個々の患者さんに
最適な医療の提供へ

現在、日本人の2人に1人が罹患するとされているがんに対する治療およびケアは、日本の医療における重点課題です。がん対策基本法の中での全体目標は、がんによる死亡率の低下、患者さんとご家族の苦痛の軽減、QOLの向上、安心して暮らせる社会の構築となっています。

その目標を達成するために、当院では化学療法と緩和ケアを早期に同じ場所で行える環境の整備、がん薬物療法専門医・がん化学療法認定看護師をはじめとするスペシャリストの育成、新規治療への取り組み、診療科・職種を超えたチーム医療の実施など、がん治療に力を注いでいます。個々の患者さんに最適な医療を提供することで患者さんおよびご家族が安心して治療を受けることができる病院を目指しています。

化学療法部門とがんゲノム医療部門を持つがんセンターでは、多くの診療科を有する大学病院の特性を活かし、多様化するがん治療の副作用対策も可能で、新薬を扱う治験も積極的に導入しています。また、効果が確認されているがん診療を基盤としてさらなる治療選択肢を提示できるように、国立がん研究センターや、国内外の臨床研究グループと連携し、多数の臨床試験にも参加しています。

さらに、第5のがん治療として注目されている光免疫療法をいち早く取り入れ、大学の附属光免疫医学研究所と連携して新規治療の開発にも取り組んでいます。



37床を有するがんセンターでは年間20,426件の化学療法を実施



がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療中核拠点病院と連携し診断、治療を行っています



切除可能ながんに対しては手術の可能性を追求し、外科手術による根治を目指しています



放射線治療部門では、特にIMRT、体幹部定位放射線治療などの高精度放射線治療を積極的に行っています



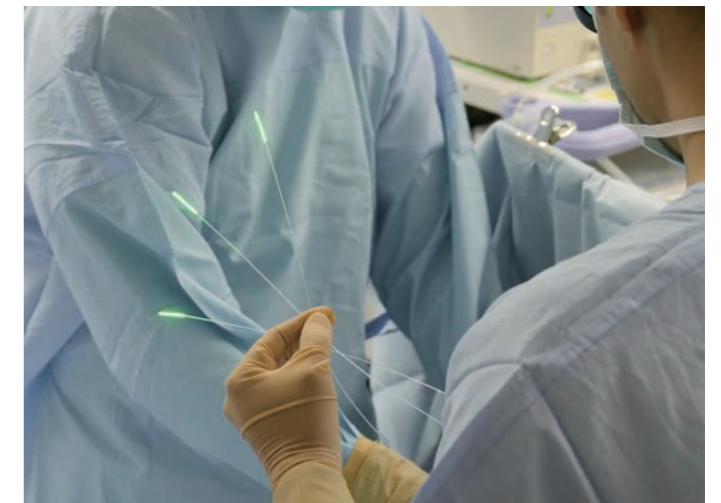
各がんに対し関連診療科がカンサーボード（がん診断治療カンファレンス）を実施し治療方針などを検討・共有しています



医師、薬剤師・看護師・臨床心理士など各専門分野のスタッフが「緩和ケアチーム」として患者さんやご家族を支援します



医師・看護師など13名からなるAYA世代支援チームにより妊孕性温存などの治療や心身のサポートを行います



光免疫療法センター専門外来にて光免疫療法の適用判断や治療の施行、予後の管理などを行っています



患者さんに寄り添い、和らげる場としてがん看護専門看護師によるがん相談外来を行っています



低侵襲治療と機能温存 治療後の早期社会復帰を

近年の医療の進歩により、従来では開腹手術が必要であった疾患に対しても内視鏡手術などの体に負担が少ない治療が登場しました。

低侵襲治療と呼ばれる治療方法で、出血や感染のリスクが少なく、傷も小さいため入院期間の短縮につながり、治療後の早期社会復帰が可能です。

当院では高精細・高機能な先端医療機器を導入することで血管や神経の損傷を回避し、治療後の各臓器の機能温存にも努めています。また、術中脳・脊髄・神経モニタリングセンターが中心となって手術中の神経モニタリングを推進しており、患者さんの術後神経機能保持に努めています。

ただ治療を行うだけでなく、治療後の生活の質:QOL (Quality of Life) を重要視し、低侵襲治療と機能温存を心がけて治療にあたっています。

従来の手術が難しかった方に

低侵襲手術は、切開が必要であったりする従来の手術に比べて、患者さんの体に対する侵襲が少ないため、従来の手術に耐えうる体力がない方、合併症をお持ちの方、高齢者、お子さんでも治療が可能になる場合があります。

02 8K内視鏡



03 術後鎮痛管理



04 IVR



01. 内視鏡手術

非常に小さな傷で手術を行うため、術後の痛みの軽減、早期回復につながります。また、外見上の傷痕も小さくすみます。

02. 8K内視鏡

新生児から小児にも高精細な 8K 内視鏡を用いることで負担を抑え、術後の傷が目立ちにくくなるよう工夫しています。

03. 術後鎮痛管理

術中、術後の鎮痛をもたらす麻酔。良好な術後鎮痛は早期回復につながります。

04.IVR

切開をせず、カテーテルや針を用いてレントゲン画像のガイド下に検査・治療を行う IVR。

05 ハイブリッド 手術室



06 TAVI



07 MICS



05. ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室における手術では手術時間の短縮により体への負担を減少します。

06.TAVI (経カテーテル的大動脈弁植え込み術)

体への負担が少ない TAVI によって高齢や併存疾患のために手術が困難だった患者さんにも、治療が可能となります。

07.MICS (Minimally Invasive Cardiac Surgery : 低侵襲心臓手術)

切開を行わず、左胸の出来るだけ小さな傷から内視鏡を用いて手術を行います。出血が少なく感染リスクが低下します。



ロボット支援手術

累計1,400例超のロボット支援手術を実施
整形外科脊椎手術支援ロボットも導入

前立腺全摘出術に対して、ロボット支援腹腔鏡手術が保険収載されて以来、胸部から子宮、膀胱、直腸など現在計 31 術式が保険適用下での手術対象になっています。当院では、腎泌尿器外科手術を中心に 1,400 例を超えるロボット支援手術を行っており、各科の外科系医師のみならず、手術室スタッフ、麻酔科医師も、ロボット支援手術を熟知しています。



腎泌尿器外科

直近ではロボット支援腎盂形成術、仙骨腔固定術、膀胱全摘術を導入。前立腺 1,000 例以上、腎部分切除術 300 例以上を実施。8 名がロボット手術の術者としての certificate（修了証明書）を取得しており、多数の患者さんに安全で質の高い手術を提供できる体制にあります。

対応する術式

【前立腺全摘除術】【腎部分切除術】【腎盂形成術】【仙骨腔固定術】【膀胱全摘術】



消化管外科

ロボット手術では寸分違わず精密な動きが可能であり、従来の内視鏡手術に比べて、より安全で精度の高い手術が実現できるようになりました。ロボット手術の利点を活かして周囲の臓器を傷つけることなく、転移している可能性があるリンパ節を綺麗に取り除くことができます。

対応する術式

【食道摘除術】【胃切除術】【直腸切除・切断術】



整形外科

脊椎手術支援ロボットを導入しました。スクリーンのずれが血管及び神経損傷などの合併症につながる脊椎固定術において手術支援ロボットにより正確なスクリーナー軌道が表示され、ロボットのアシストのもとスクリーナーを挿入することが可能となりました。

対応する術式

【脊椎手術】



救急医療

北河内二次医療圏最後の砦として

高度救命救急センターでは、北河内 2 次医療圏の 3 次救急医療を一手に引き受けています。生命に危機を及ぼすような重篤な疾病や重度外傷などの多様な重症救急症例に対して高度専門技術を駆使した救命救急医療を提供し、圏域にお住まいの皆さんに安全と安心をお届けできるよう努めています。



ドクターカー

枚方寝屋川消防組合と連携して枚方市・寝屋川市・交野市を対象にドクターカーを運用しています。救急車に医師が同乗して傷病者のもとに駆けつけることで、医師の管理下に入るまでの時間が短縮され、心不全や脳梗塞などの 1 分 1 秒を争う重篤な患者さんの救命率の改善や後遺症の軽減・抑止が期待されます。



高度救命救急センター

初療室は十分に広く、重症患者さんが 3 名同時に搬送されても診療できる体制になっています。複数の救命救急センター専属医が診療を行える診療体制をとっており、直ちに手術を必要とする患者さんに対応が可能です。隣接する救急外来は、診察室 3 室、処置ベッド 10 床を備え、通院患者の急変対応（救急搬送）や時間外での処置に活用しています。



災害訓練・DMAT（災害派遣医療チーム）活動

災害拠点病院として災害時に迅速に対応できるよう行政や大学と連携して災害訓練を行っています。また、日本 DMAT の資格を持つ医師が複数在籍しており、各地で大規模災害等があった場合に DMAT チームを派遣しています。



脳ドック

大学病院ブランドの脳ドック

我が国において特に介護が必要とされるのは、「脳卒中」や「認知症」に悩む方々です。これらの予防を目的とした日本独自の健診システムとして、「脳ドック」が行われています。当院は、大学病院の高度な設備を駆使し、第一線で「脳」の診療をする専門医達がタッグを組んで、皆様の「脳健康」を徹底チェックすることをお約束します。

■ご予約・申込

下記の入力フォームに必要事項をご入力いただき、「内容を送信」ボタンを押してください。追って担当者より連絡させていただきます。



入力フォーム

お問合せ：072-804-0101（代表）

予約確認フォームの
入力

下記のフォームに必要事項をご入力いただき、「入力内容の確認」ボタンを押してください。

電話にて連絡

ご希望の日程の空き状況を確認し、当院スタッフより電話にて連絡致します。

予約完了

日程が確定しましたら、予約受付完了です。スタッフ一同よりお待ちしております。

■脳ドック実施日程

第1・3・5土曜日 8:30～12:30

■費用

70,000円（税込）

■検査項目

- ◎身体測定（身長・体重・血圧）
- ◎血液検査（赤血球、白血球、色素量、ヘマトクリット、肝機能、腎機能、脂質、空腹時血糖、グリコヘモグロビン）
- ◎心電図検査
- ◎MRI（磁気共鳴装置：3テスラ以上）
- ◎頸動脈エコー
- ◎高次脳機能検査



関医タワーホテル

24時間宿泊受付

関医タワーホテルは、関西医科大学附属病院の敷地内にあり、病院を受診される方やそのご家族の方が安心してご宿泊できる施設です。

施設概要

- ◎フロント1階、客室9-11階 ◎無料Wi-Fi完備
- ◎全24室（シングル15室、ツイン9室、うち1室バリアフリー）

ご利用できる方

- ◎附属病院を受診される患者さんやそのご家族

予約方法

- ◎インターネットもしくは電話での予約が可能です

■専用予約サイト <https://kmuth.rsvsys.jp>



■電話による予約（8～22時受付）

072-804-2191

■当日の宿泊申込について

- ◎ ～15時：予約サイト経由またはお電話
- ◎ 15～22時：お電話（直接フロントでの手続きも可能です）
- ◎ 22時～：救急外来受付へ直接お越しください



シングルルーム

ツインルーム

ロビー

利用料金

《宿泊》	《デイユース》
◎シングルルーム（1室1名）：5,500円（税込）	◎シングルルーム（3時間）：3,000円（税込）
◎ツインルーム（1室2名）：8,500円（税込）	◎ツインルーム（3時間）：4,500円（税込）

チェックイン/チェックアウト

- ◎チェックイン 15:00～22:00
- ※22時以降、急に利用を希望される場合は、救命救急センター窓口で受付しています。
- ◎チェックアウト 10:00

特別プラン

【がんセンターご利用プラン】

がんセンターで薬物治療を受けられる方の、終了時までのご本人と付添の方は…

- 前泊の場合 チェックアウト時間10:00以降の延長料金無料
- デイユースの場合 基本の3時間を超えても延長料金無料

【大腸ファイバーご利用プラン】

大腸ファイバー検査開始時間までの待機利用の方は…

- 前泊の場合 チェックアウト時間10:00以降の延長料金無料
- デイユースの場合 基本の3時間を超えても延長料金無料

ご希望の場合
ペットボトルの
水（500ml）
6本を400円で
ご提供

あたたかい看護

地域の方に安心を

看護職の仕事は幅広く、外来や病棟でのケアから手術の準備・介助、新人ナースの研修や看護ケア外来での指導など多岐にわたります。看護部の基本方針を胸に、治療中の患者さん、ご家族、ひいては地域の方々に安心を提供できるよう日々取り組んでいます。

教育においては、正確な判断・実践力を育み、患者さんの些細な変化にも「気づき」の眼を持つ自立した看護職の育成を目指し、チーム医療においても、一人ひとりが自分の考えを伝え、互いを尊重した良好な人間関係が築けるよう、多職種連携の推進に努めています。看護師自身がやりがいを持って働き続けられるように、育児支援やワークライフバランスの充実にも取り組んでいます。

附属病院看護部基本方針

- [誠実・誠意] 私たちは、患者・家族との信頼関係を築き誠意を持って最善の看護を提供します
- [やさしく・穏やか] 私たちは、安心・安全に配慮しあたたかい看護を提供します
- [革新・刷新] 私たちは、常に新しい知識・技術を取り入れ、看護の革新に努めます
- [生活・活力] 私たちは、看護職に誇りを持ち生き生きと輝いて看護します
- [エキスパート・専門] 私たちは、専門職としての自覚と責任を持ち、他職種と協働してより質の高い看護を提供します



手術が安全に進行することを第一にチーム一丸となって取り組んでいます。進化する医療に対し専門性を高めるため自己研鑽に努めています。



40名以上の助産師が在籍しており、「両親教室」や「母乳外来」を実施。妊娠期から産褥期を通してサポートできる体制を整えています。



院内感染対策チームや呼吸サポートチームなど医師・臨床工学技士・理学療法士といった多職種でチームを組み、専門的ケアを行います。



研修では、e-ラーニングに加え、対面講義に実習、臨床現場での実践を行います。



特定看護師は指定のストラップを着用し、臨床現場で活躍しています。



附属病院では総勢 88 名の特定看護師が在籍しており、令和 5 年度は 26 名が研修を受講しています。

特定看護師 (特定行為研修修了看護師)

看護師の更なる役割拡大を目指し、看護師特定行為研修に注力しています。およそ 1 年間の講義や臨床実習を経て手順書に基づき実践します。

※特定看護師（特定行為研修修了看護師）とは

保健師助産師看護師法によって制定された特定行為研修は、年々高度化が進む医療の現場においてチーム医療のキーパーソンである看護師が、実践的な理解力、思考力および判断力ならびに高度かつ専門的な知識および技能の向上を図るために行われるものです。

研修受講後の看護師は、厚生労働省が定める 21 区分 38 行為の特定行為の中であらかじめ医師が手順書に定めた行為については、医師の指示を待たずに患者さんへ施すことが可能となります。これにより、急変時や慢性疾患の対応などでタイムリーかつ効果的な看護を実現することで、質の高い医療の提供が可能とすることや、医師の働き方改革に寄与することが期待されています。



快適な療養環境

心身ともに回復していただくために

入院生活を快適に過ごしていただくため、ニーズに応じて多様なお部屋を用意しています。すべての病室のテレビおよび冷蔵庫は無料でご利用いただけます。令和3年から準個室を配備。4床室でありながらプライベート空間を維持できる設計となっています。6階には季節の花が楽しめる開放的な屋上庭園を設置しています。



面積 35㎡の4床室にプライベート空間を兼ね備えた準個室。



洗面台、ユニットシャワー（一部個室のみ）、トイレを備えた個室。



眺めのよいダイニングは入院中の気分転換にご利用ください。



ミニキッチン・クローゼット・別室などを備えた特別療養環境室もご用意しています。

病室

4床室	99室
準個室	27室
2床室	5室
個室	156室
室料差額	3,800円～89,100円(税込)
面積	14.6㎡～46.8㎡



無料 Wi-Fi サービスを提供しています。
SSID : kmuhospital-WiFi



介護・福祉部門

専門性の高いサービスを提供

在宅看護やリハビリ治療、介護に幅広く提供することを目的として「関医訪問看護ステーション・枚方」、「関医ケアプランセンター・枚方」、「関医デイケアセンター・枚方」を令和2年1月に開設。附属病院はもとより関連機関とのネットワークの強化を図りながら、地域の皆さんが安心して介護・福祉サービスを利用できるよう努力してまいります。



住み慣れたご自宅で、地域関連機関と連携をとりながら必要な治療や介護を受けられるなど、安心して暮らす生活を送っていただくよう努めてまいります。

サービス内容

- ご家族への指導・相談
- 床ずれの予防と処置
- 清拭・入浴・食事などの介助
- 症状の観察 ○認知症の看護
- 医療機器の管理など
- ターミナルケア ○リハビリテーション

TEL:072-845-5471



住み慣れた自宅で自立した生活ができるように保健・医療・福祉のサービスを総合的に受けるためのケアプランを作成します。

サービス内容

- 訪問看護・理学療法士などによるリハビリ
- デイケアやデイサービス
- 訪問介護
- 福祉用具のレンタル

TEL:072-845-5472



リハビリテーションロボットやトレーニング機器を導入しており、運動機能や認知機能の改善を通して利用者の介護予防・自立支援を目指します。

サービス内容

- リハビリ特化型デイケア
- 複数のプログラムを組み合わせたトレーニング
- 利用時間:1時間(運動時間:40分)
- 入浴・食事・送迎の提供なし

TEL:072-804-2676



当院は高度医療の提供に加え、医師国家免許を取得した1年目・2年目の医師（研修医）の臨床研修を行う基幹型臨床研修病院として、医育機関の役割を担っています。令和4年にNPO法人卒後臨床研修評価機構（略称:JCEP）による第三者評価の認定を受けました。また臨床研修後、専門研修を希望する方に対して、「専攻医」として3年以上研修を受けるための19領域全ての専門研修プログラムを用意するなど、専門医の育成にも努めています。未来の医療を担う医療人の育成について、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

当院の臨床研修理念と基本方針

以下の理念・基本方針に基づいて研修医を育成しています。

研修理念

慈仁（めぐみ）を心の鏡とした「安全で安心の医療」を基本姿勢とし、医師としての人間性を涵養し、幅広く必要な診療能力を身につけた誠実であたたかい医療を提供できる医師を育成します。

研修基本方針

- 【人間性の涵養】豊かな人間性と高い倫理観をもち、科学的思考に基づいて行動できる医師を育成します。
- 【基本的診療能力の習得】患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を有した医師を養成します。
- 【チーム医療】チーム医療の目的や役割を理解し、かつ地域医療に貢献できる医師を養成します。
- 【安全・質の高い医療】最新の医学、幅広い知識と技能を有し、安全で良質な医療を実践できる医師を養成します。



研修医だけでなく医学部・看護学部・リハビリテーション学部生の研修も行っています。

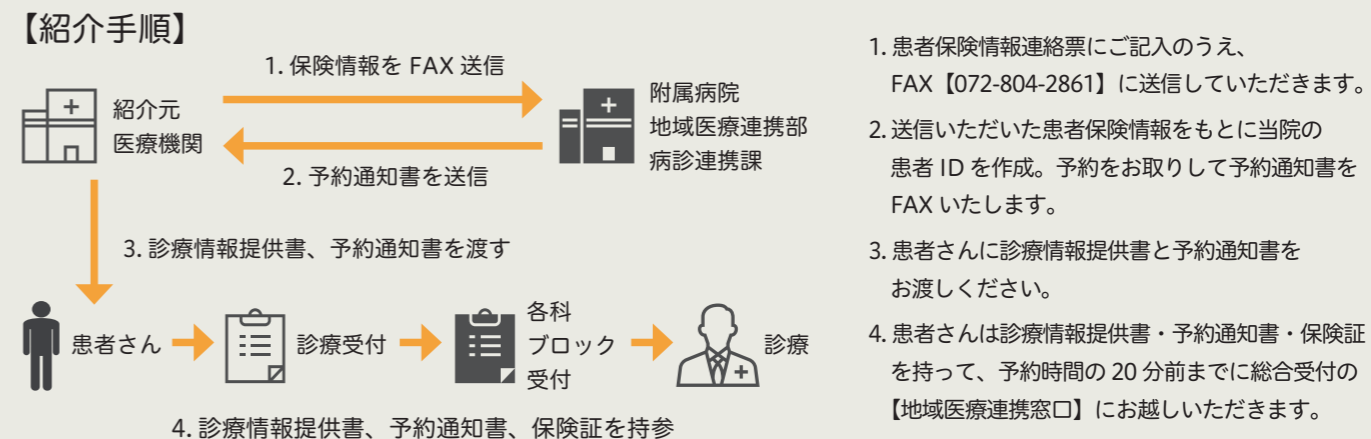


関西医科大学では専攻医のための専門研修プログラム冊子「魅力あるキャリア形成」を発行しています。

地域医療連携

地域医療機関との医療連携を進め、紹介患者さんに安心して受診していただくため、地域の先生方と当院の医師との連絡・連携の窓口としての役割を担っています。迅速な社会復帰や、円滑な退院・転院のために、医療福祉相談、退院・転院を調整する退院支援を行っています。

患者さんの紹介について



※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。

※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、地域医療連携部【TEL:072-804-2742】にご連絡をお願いいたします。

※受付時間 平日 8:30～20:00 / 土曜日 8:30～12:30



地域医療連携推進法人 北河内メディカルネットワーク

北河内二次医療圏（枚方市、守口市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の12の法人・個人が集い、「北河内メディカルネットワーク（KMN）」を設立、大阪府から地域医療連携推進法人の認定を受けました。医療機関等の競争から協調への転換を進め、連携推進業務によるサービスの向上はもとより、地域の多様な医療・介護ニーズに応えられるよう尽力してまいります。

主な業務

医療安全部門の連携

- ・医療安全共同研修
- ・意見交換会
- ・医療安全マニュアル

感染対策部門の連携

- ・感染対策共同研修
- ・意見交換会
- ・感染症予防ガイドの共有

検査機器等の共同利用

- ・放射線検査予約システムの運用

その他医療従事者向け研修

- ・接遇研修

オンライン・セカンドオピニオン外来のご案内

当院では、従来の対面型セカンドオピニオン外来を拡充させ、地域に縛られない「オンライン・セカンドオピニオン外来」を設置しました。これにより全国どこからでも当院に所属する各領域専門医に異なる角度から医学的知見を相談することが可能となりました。

対象者	相談時間	相談料金	問合せ先
○治療方針で迷っている方 ○他に治療方法があるかどうかを確認したい方 ○自分の症状が本当に適正に診断されているのか、確かめたい方	60分まで	44,000円 (税込み)	地域医療連携部 オンライン・セカンドオピニオン担当 TEL:072-804-2742

利用の流れなど詳細は当院ホームページ特設ページをご覧ください。

診療部科長・診療内容のご紹介

外科

消化管外科

肝臓外科

胆膵外科

小児外科

乳腺外科

心臓血管外科

血管外科

脳神経外科

脳血管外科

脳血管内治療科

小児脳神経外科

呼吸器外科

整形外科

形成外科

皮膚科

腎泌尿器外科

耳鼻咽喉科

頭頸部外科

歯科・口腔外科

眼科

産婦人科

婦人科

婦人科内視鏡外科

産科

救急医学科

血液腫瘍内科

呼吸器腫瘍内科

呼吸器・感染症内科

循環器内科

腎臓内科

糖尿病科

内分泌内科

リウマチ・膠原病科

健康科学科

消化器肝臓内科

脳神経内科

精神神経科

心療内科

総合診療科

小児科

リハビリテーション科

麻酔科

区域麻酔・ペインクリニック

呼吸器外科麻酔

放射線科

画像診断科

放射線治療科

核医学科

血管造影 IVR 科

臨床検査医学科

病理診断科

外科 Surgery



主任教授

関本 貢嗣 SEKIMOTO Mitsugu

関西医科大学附属病院の外科は、消化管外科、肝臓外科、胆膵外科、小児外科、乳腺外科の5つの部門からなります。豊富な経験と高度の技術に裏付けられた最先端の医療を行っています。

非常に幅広い疾患を扱い、合併症のある患者さんや重症例も積極的に引き受けています。今後も地域の患者さんや先生方からの信頼にお応えできる様に努めてまいります。



消化管外科

Gastrointestinal Surgery

診療教授

濱田 円 HAMADA Madoka

病院教授 山崎 誠
YAMASAKI Makoto

食道癌、胃癌、大腸癌など消化管がんの治療に重点を置いています。進行がんの治療では根治性を最優先し、鏡視下手術や集学的治療を実施します。一方、根治のむずかしい症例では患者さんのQOL（生活の質）を重視し、無用な侵襲を避けるよう努めています。患者さんの安全と利便性を第一に考え、紹介元の病院と連携し、いつでも対応できる体制をとっています。

診療教授 井上 健太郎
INOUE Kentaro
(上部消化管外科担当)

肝臓外科

Hepatic Surgery

診療教授

海堀 昌樹 KAIBORI Masaki

手術後の合併症を起こさない、安全かつ丁寧な手術を行うことをポリシーとし、年間180例以上の原発性肝細胞癌、転移性肝癌、肝内・肝門部胆管癌、胆嚢癌、巨大血管腫などの肝切除術を行うなど、徹底した癌根治手術を追究しています。また手術前後の肝臓・胆道領域の抗癌化学療法も数多く行っています。常に患者さんにとって一番良い治療方針をご提案し、患者・医師お互いが強い信頼関係で結ばれた心の通った医療を実践しています。



胆膵外科

Biliary Pancreatic Surgery

診療教授

里井 壯平 SATOI Sohei

胆膵領域の手術は難易度が高いことから、消化器外科専門医においても完遂困難な手術が多く、より優れた技能を必要とします。当科の特徴は、良性または良悪境界性疾患に対しては低侵襲で痛みの少ない（単孔式）腹腔鏡手術を積極的にを行い、進行がんの多い胆膵がんに対しては化学療法などの集学的治療を導入し積極的に高難度手術に取り組み、良好な成績を収めています。



小児外科
Pediatric Surgery
診療教授
土井 崇 DOI Takashi

小児の病気のうち、外科的な手術で治療する疾患が対象です。日常によくある疾患から高度な手術手技が必要となる疾患まで対応しています。対象年齢は新生児から15歳まで幅広く、小児科や産科など、他科とも緊密な連携を取りながら治療にあたります。お子様に優しく、傷が目立ちにくい、低侵襲の内視鏡手術を積極的に実施しています。症例によっては、日帰りでも手術を行うことができ、ご家族からも好評を得ています。



乳腺外科
Breast Surgery
診療教授
杉江 知治 SUGIE Tomoharu

乳がんなどの乳腺疾患を専門に扱います。大学病院の利点を生かし、関係各科や各領域の専門医との緊密な連携のもと、乳房再建を含む手術療法、薬物療法、放射線治療などを組み合わせた集学的治療を実施しています。乳がんの遺伝子診療やがんの特性に合った個別化治療を実践し、安全で安心な乳がん診療を心掛けています。次世代型医療の開発に取り組むとともに、女性乳腺外科医の育成にも力を注いでいます。



心臓血管外科
Cardiovascular Surgery
主任教授
小山 忠明 KOYAMA Tadaaki

狭心症や心筋梗塞、弁膜症、大動脈瘤など心臓と血管に関わる疾患の手術、治療を行います。複雑化した冠動脈病変のバイパス手術や、心臓弁膜症の弁形成術、急性大動脈解離の緊急手術など、救急から慢性疾患まで診療しています。冠動脈バイパス手術では、手術が困難な血管であっても、冠動脈形成術を駆使して対応しています。また、小切開の弁形成術や大動脈瘤のステントグラフト治療など、低侵襲治療にも取り組んでいます。



血管外科
Vascular Surgery
理事長特命教授
善甫 宣哉 ZEMPO Nobuya

当科の対象疾患ならびに治療法は、胸部・腹部大動脈瘤に対する胸部・腹部ステントグラフト内挿術、B型大動脈解離に対する胸部ステントグラフト内挿術とリエントリー閉鎖術、末梢動脈閉塞に対するステントグラフト留置術、ステント留置術、膝下膝窩・脛骨・腓骨動脈バイパス手術、下肢静脈瘤に対する Venaseal 血管閉塞術、ラジオ波焼灼術です。できるだけ体を切らないカテーテルによる血管内低侵襲手術を中心に行っております。



主任教授
浅井 昭雄 ASAI Akio

脳、脊髄、末梢神経系などを含む神経系全般の疾患のうち、外科治療が必要となる分野を担当します。脳脊髄腫瘍、脳卒中、頭部外傷、中枢神経系感染症、血管障害、頭蓋異常、水頭症など、幅広い領域の疾患を扱います。悪性、良性を問わず脳腫瘍の治療や、小児脳疾患の治療に特に力を入れています。脳腫瘍治療には、最新の放射線化学療法や手術治療を組み合わせることで、患者さんのQOLを落とさずに治療することを心掛けています。



脳血管外科
Cerebrovascular Surgery
病院教授
吉村 晋一 YOSHIMURA Kunikazu

脳血管障害の外科的治療には顕微鏡や外視鏡を用いた開頭術とカテーテルを用いた脳血管内治療があります。近年、非侵襲的な血管内治療が多く行われるようになりましたが、未だに開頭術の方が適している疾患も多くあります。我々の施設では本来開頭術が適している脳血管疾患については、神経生理モニタリングや血管造影装置を併設した手術室などを利用し、より安全な開頭術を行うように心がけています。



脳血管内治療科
Neuroendovascular Treatment
理事長特命教授
天神 博志 TENJIN Hiroshi

脳神経外科血管障害治療は以前と様変わりし多くは低侵襲の血管内治療が可能となりました。血管内治療に早くから取り組んだ結果その有用性と限界について経験してきました。血管内治療、開頭術が持つ良い点をいかそうと思います。血管内治療、開頭術共にIT技術により急激に発達しており、臨床で活用したいと思います。脳卒中は寝たきりになることが多い疾病で社会問題です。予防が重要と考えスクリーニングにも取り組んでいます。



小児脳神経外科
Pediatric Neurosurgery
診療教授
桒中 正博 NONAKA Masahiro

先天性水頭症や小児脳腫瘍、脊髄の異常など、小児の脳疾患の治療には特別な知識や経験が必要です。当科は小児脳神経治療に特化した西日本で唯一の科であり、全国でも3施設しかありません。先天性水頭症では神経内視鏡治療を利用し、脊椎手術の際には後遺症が残らないよう神経生理モニタを使用するなど、最先端の治療を積極的に取り入れています。単に治療だけでなく、治療後の患者さんの成長や発達も見届けるように努めています。

呼吸器外科
General
Thoracic
Surgery



主任教授
村川 知弘 MURAKAWA Tomohiro

肺がんを中心に縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、自然気胸および重症胸部外傷など幅広い呼吸器疾患を診療しています。年間 250 例を超える原発性肺がん手術を行い、その大部分を完全胸腔鏡下手術で実施しています。また、進行肺がんの再発に対応した術後リハビリや、ターミナルケアが可能な近隣の医療機関と密に連携するなど、地域の呼吸器外科診療に、より幅広く対応できる体制を整えています。

整形外科
Orthopedic
Surgery



主任教授
齋藤 貴徳
SAITO Takanori



理事長特任教授 堀井 恵美子 HORII Emiko
学長特任教授 幸原 伸夫 KOHARA Nobuo
病院教授 安藤 宗治 ANDO Muneharu
病院教授 谷口 慎一郎 TANIGUCHI Shinichiro

脊椎疾患の治療に関しては、脊椎固定術の小侵襲化に取り組んでおり、同分野でのオピニオンリーダーとしての役割を担っている施設の一つです。手術支援技術である脊髄術中モニタリングを導入し安全・安心な脊椎手術を実践しております。また、股関節疾患の診療においては、骨セメントを用いた人工股関節の導入で国内屈指の症例数を有しており、股関節鏡下手術の導入など、患者さんの負担軽減にも取り組んでおります。

形成外科
Plastic and
Reconstructive
Surgery



主任教授
覚道 奈津子 KAKUDO Natsuko

全身の体表面の外傷や生まれつきの変形、腫瘍切除後の再建手術を行います。外傷（熱傷や顔面外傷・骨折の治療）、潰瘍や床ずれ、傷あとやケロイド、皮膚や皮下のできもの、先天異常（唇裂、口蓋裂、小耳症、多指症合指症など）、事故による組織欠損や他科での腫瘍切除手術後（乳房再建、顔面や食道、咽頭、喉頭の再建など）の治療、眼瞼下垂、レーザー治療など多岐にわたる治療を行います。体表に関わるどのようなことでもお気軽にご相談ください。

皮膚科
Dermatology



主任教授
谷崎 英昭 TANIZAKI Hideaki

全ての皮膚の病気に最新で最適な診療を提供できる体制を整えています。特にアレルギー性皮膚疾患、皮膚悪性腫瘍、乾癬、膠原病（を原因とする皮膚の症状）、光線過敏症、サルコイドーシスなどの診療に力を注いでいます。乾癬に対しては生物学的製剤を積極的に導入することで高い治療効果を得ており、西日本各地から患者さんが来院しています。悪性腫瘍に対しても、手術・化学療法を合わせて集学的な治療を行っています。

腎泌尿器外科
Urology



主任教授
木下 秀文 KINOSHITA Hidefumi

泌尿生殖器腫瘍、尿路結石、尿路感染症、排尿障害（尿失禁）、前立腺肥大症、骨盤臓器脱（女性）、腎移植、男性不妊、男性機能障害、副腎機能障害、小児泌尿生殖器疾患に至るまで、泌尿器に関わるあらゆる病気を専門的に診療します。体にやさしい低侵襲治療・手術（きずの小さい手術）を実践し、患者さんのQOLを大切にしています。また、日本で最も早くに腹腔鏡手術を始めた泌尿器科であり、「ダ・ビンチ」を用いたロボット支援手術を多数実施しています。

耳鼻咽喉科
頭頸部外科
Otolaryngology
Head and Neck
Surgery



主任教授
岩井 大 IWAI Hiroshi

耳、鼻、喉、首など、さまざまな部位の疾患を扱い、疾患ごとに専門の外来を設け、診療を実施しています。また、内視鏡手術により、治療が困難な好酸球性副鼻腔炎（難治性副鼻腔炎）の手術を行っています。さらに、当院は国内でも数少ない中耳炎と頭頸部進行がんの診療施設です。近年はアレルギー症状に対する舌下免疫療法や難治性となったがんに対する光免疫療法を開始するなど、最新の治療や機器を積極的に取り入れています。

歯科・口腔外科
Dentistry
and
Oral Surgery



センター教授
兒島 由佳 KOJIMA Yuka

大きな手術や化学療法などでは免疫力が低下し、口腔内の環境が悪化しやすくなります。また手術部位感染・術後肺炎などの感染症や口腔粘膜炎も生じやすくなります。その予防のために他科と緊密な連携を取りながら、専門的な周術期口腔機能管理を実施し、早期回復、早期退院をサポートしています。さらに、医科の先生や地域の歯科医院の先生と連携しながら、口腔外科疾患（埋伏智歯、嚢胞、口腔領域の炎症性疾患、外傷、粘膜疾患、顎関節症、顎骨壊死など）の診断・治療や手術にも力を入れて取り組んでいます。

眼科
Ophthalmology



主任教授
高橋 寛二 TAKAHASHI Kanji

白内障はもとより、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など、眼科領域のあらゆる疾患の診療に取り組んでいます。患者さんの状態や症状に合わせて、薬物治療はもちろん、レーザー治療や外科的手術など、最適な治療法をきめ細かに選択して行っています。スタッフ、診療機器の両面でレベルを高め、高度な専門的診療を継続的に提供しています。その結果、手術実績は常に年間 2,000 例を超え、特に加齢黄斑変性では全国から患者さんが受診しておられます。

産婦人科
Obstetrics
and
Gynecology



婦人科
Gynecology
主任教授
岡田 英孝 OKADA Hidetaka

子宮筋腫、子宮がんや卵巣嚢腫、卵巣がん、性感染症などの婦人科疾患全般を扱っています。婦人科腫瘍では、手術だけでなく薬物療法や放射線治療を実施し、臨床遺伝センターと連携したがんゲノム医療に取り組んでいます。また、生殖医療センターでは若年女性がん患者さんの卵子・胚を凍結保存する妊孕性温存を推進しています。産科や総合周産期母子医療センターとともに、女性の生涯の健康をサポートする体制を整えています。



婦人科内視鏡外科
Gynecological and Obstetric Endoscopy
診療教授
北 正人 KITA Masato

悪性腫瘍（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）と、婦人科良性腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症など）の治療を行っています。根治性を担保しながら神経温存・リンパ浮腫予防・妊孕性温存回復術式を、開腹・腹腔鏡・子宮鏡・ロボット手術を駆使して、先進的な治療法を積極的に開発・実施しています。後遺症をできるだけ抑える手術の開発に取り組み、「患者さんにやさしい」治療を目指しています。



産科
Obstetrics
診療教授
森川 守 MORIKAWA Mamoru

当科は大阪府内に6つある総合周産期母子医療センターのうちの1つです。MFICU（母体集中治療）とNICU（新生児集中治療）を備えた基幹施設として、大阪府下全域ならびに他府県からも妊産婦救急を受け入れています。また、専門の産科麻酔医チームによる無痛分娩も行っています。母体合併症に対しては専門内科・外科と協力し治療を行っています。胎児・新生児疾患に対してはNICU・小児外科・小児脳神経外科などと共同で治療にあたっています。



主任教授
鋤方 安行 KUWAGATA Yasuyuki

大阪府下に3施設ある高度救命救急センターの1つとして、北河内圏域を中心に大阪府下で発生した最重症救急例を365日24時間体制で受け入れています。救急医学科を中心に院内各診療科の協力を得ながら診療しています。平成29年度からドクターカーの本格運用を開始し、救急科専門医が出勤することによって重症度・緊急度の高い例に対して現場から救命治療を開始する体制が整いました。まさに圏域の救急医療の最後の砦として機能しています。

血液腫瘍内科
Hematology-
Oncology



主任教授
伊藤 量基 ITOU Tomoki

白血病や悪性リンパ腫、造血器腫瘍、慢性骨髄性白血病など、全ての血液疾患が対象です。血液疾患は治療期間が長くなる傾向にあります。北河内エリアの患者さんやご家族の負担を軽減するために、地域の医療機関と連携し、造血幹細胞移植など高度な治療は全て当院で対応できる体制を整えています。さらにキメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞（CAR-T）療法、分子標的療法や新規治療薬の積極的な導入など、常に最先端の医療を提供しています。

呼吸器腫瘍内科
Thoracic
Oncology



主任教授
倉田 宝保 KURATA Takayasu

肺がんや胸膜中皮腫など、胸部悪性腫瘍をはじめとする呼吸器疾患全般を診療し、府内トップレベルの症例数を誇ります。診断には画像検査および気管支内視鏡検査を、治療には分子標的薬剤、今話題のがん免疫療法、そして抗がん剤を用いた化学療法を取り入れ、早期発見と適切な治療に努めています。また、有効な新薬をいち早く患者さんに提供できるように、肺がん治療薬の治験を数多く行うとともに、臨床試験グループに所属し、豊富な臨床研究に日々取り組んでいます。

呼吸器・感染症
内科
Respiratory Medicine,
Infection Diseases



診療教授
宮下 修行 MIYASHITA Naoyuki

気管支喘息などのアレルギー肺疾患、肺炎などの感染症、喫煙による慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など、肺（呼吸器）の診療をしています。また、呼吸器の病気の代表的な症状である「咳と痰」は、厚生労働省の国民生活基礎調査で毎年、上位に位置しています。咳が長引いて、お困りの患者さんのために「咳診療」も行っています。大学病院では最先端の診断機器がそろっていますので、受診日に適切な治療を開始できるよう心がけています。

循環器内科
Cardiology



主任教授
塩島 一郎 SHIOJIMA Ichiro



病院教授 竹花 一哉
TAKEHANA Kazuya

虚血性心疾患や心不全など、循環器疾患の多くは生活習慣病であり、急性期の迅速な対応とともに「未病」の段階での一次予防、発症慢性期での二次予防が重要です。関係各科と連携して診療に臨む一方、患者教育にも取り組んでいます。また当科では、重症患者さんに対して、冠疾患集中治療室（CCU）での治療や人工心肺に準じたメカニカルサポートによる治療を行うなど、循環器疾患を持つ患者さんに十分な治療を提供できる体制を整えています。

腎臓内科
Renal Medicine



診療教授

谷山 佳弘 TANIYAMA Yoshihiro

腎臓内科は、定期検診における検尿異常の2次精査（腎生検）から、腎炎・ネフローゼ、慢性腎臓病（ゆっくりと腎不全に進行する透析予備群）の治療、さらに末期腎不全の腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）まで、幅広い診療を行っています。平成27年に腎センターが設立され、内科（腎、糖尿病、運動科学）、外科（腎泌尿器）、さらにコメディカル（看護師、栄養士、薬剤師、運動療法士など）が、それぞれの専門性を生かしつつ相互に協力し、より良い診療を提供しています。

糖尿病科
Diabetes

内分泌内科
Endocrine
Medicine



診療教授 豊田 長興 TOYODA Nagaoki

糖尿病科

近年、治療薬が数多く登場し、糖尿病治療は多様化かつ複雑化しています。24時間血糖をモニターできる機器も利用可能となり、健康人に近い血糖コントロールが可能となってきました。当科では、初めて診断された患者さんから、1型糖尿病、糖尿病合併妊娠、膵全摘後の患者さんなど専門的な知識が必要な患者さんまで、看護師、栄養士、薬剤師、運動療法士と一緒に、きめ細かい診療を提供しています。

内分泌内科

ホルモンの量や作用の異常により、全身に影響をおよぼす脳下垂体、甲状腺、副甲状腺および副腎などの内分泌疾患の診療にあたります。内分泌疾患は、検査所見の異常から見つかることが多く、地域の医療機関と連携しながら、患者さんの症状や状況に合わせた適切な診断、治療を心掛けています。

リウマチ・膠原病科
Rheumatology
and
Clinical
Immunology



病院教授

尾崎 吉郎 OZAKI Yoshio

関節リウマチと膠原病を診療します。特に関節リウマチは、難度の高い生物学的製剤による薬剤療法を積極的に実施し、高い効果をあげています。当院のリウマチ性疾患を専門とする整形外科医や膠原病内科医はもちろん、地域の医療機関とも緊密なネットワークを構築しています。また、勉強会の開催などの地域全体の診療レベル向上に取り組み、初診から軽快後のアフターフォローや再発時の再診対応まで、切れ目のない診療を提供します。

健康科学科
Health Sciences



理事長特命教授

木村 穂 KIMURA Yutaka

心臓、肥満、糖尿病、抗加齢医学などの専門医をはじめ、運動指導士、管理栄養士、臨床心理士などの各種専門スタッフと協力しながら、心臓病や高血圧、糖尿病、高度肥満症などの生活習慣病予防及び治療を行います。食事や運動療法は当院の医師だけではなく、かかりつけ医とも協力してお薬の治療との併用も可能です。サルコペニア外来での食事、運動による専門的な治療や禁煙治療も行っています。

消化器肝臓内科
Gastrointestinal
and
Hepatic Medicine



主任教授

長沼 誠 NAGANUMA Makoto

食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓などあらゆる消化器領域の疾患を対象とし、早期消化管がんに対する内視鏡治療や抗がん剤治療などを患者さんの状態に合わせて提供しています。最近患者数が増加している難病疾患である潰瘍性大腸炎やクローン病については開院土曜日も含めて専門医が新規治療を取り入れ診療にあたっています。またC型慢性肝炎では治療法が劇的に進歩しており、100%近い治療効果が得られるようになってきました。さらに膵臓がんやIgG4関連疾患などの診療にも力を入れています。



診療教授 下田 慎治
SHIMODA Shinji

脳神経内科
Neurology



主任教授

薬師寺 祐介 YAKUSHIJI Yusuke

脳血管障害、認知症、パーキンソン病、運動ニューロン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脳・髄膜炎、頭痛、末梢神経障害など、脳神経内科全領域を網羅できる北河内エリア随一の脳神経内科センターです。脳血管障害（特に脳梗塞）のカテーテル治療に力を入れており、国内・国際共同研究による臨床試験にも積極的に参加しています。神経難病については、大学病院でしかできない診断・加療を通じて患者さん・ご家族をサポートしています。

精神神経科
Neuropsychiatry



准教授

加藤 正樹 KATO Masaki

気分が落ち込む/やる気が出ない/眠れない/疲れやすいなどの抑うつ症状をうつ病専門外来で診療しています。適切な復職のステップの指導といった産業メンタルヘルスの介入も行っています。また、物忘れをする/時間、場所がわからない/症状に自覚がないといった認知症症状ほか、物事にこだわり過ぎる、精神的ストレスでの動悸、息苦しさといった症状も診療しています。身体疾患で入院中の患者さんの、不眠や精神的不調はリエゾンや、緩和ケアで対応しています。

心療内科
Psychosomatic
Medicine



主任教授

蓮尾 英明 HASUO Hideaki

痛み、食欲不振、だるさ、息苦しさといった様々な症候のなかで、身体と心が絡み合う問題から発症する疾患を、身体面・心理社会面・行動面を重視しながら診療しています。難治的疾患のケアを重視した緩和ケアセンター、痛みセンターとも強固に連携しています。患者さんをサポートし、患者さん自らが病状を自己コントロールできるよう改善につなげるのが心療内科の役割です。

総合診療科
General Clinical
Department



講師

西山 順滋 NISHIYAMA Junji

当院には約 40 の診療科があります。総合診療科はどの診療科の受診がふさわしいか判断できない患者さんの診療を担当します。当科で対応可能な疾患は当科での終結を目指し、より専門的な診療を要する場合は、適切な診療科につなぐ役割を担います。診断・治療までの時間を短縮し、早期に問題が解決できることを心がけています。入院診療は担当しておらず、慢性疾患の長期継続診療は院内の他科または地域医療機関と連携します。

主任教授

金子 一成 KANEKO Kazunari



病院教授 藤井 喜充
FUJII Yoshimitsu

体重 1,000g 未満の超低出生体重児から 20 歳までの、あらゆる疾患の小児を受け入れています。大学病院でありながら重症疾患のみならず二次医療機関と同様に、軽症疾患にも対応しています。専門的・高度先進医療を提供する一方、「成長にあわせたケア」を合い言葉に、院内学級を併設し、チャイルドライフスペシャリストを常駐させています。さらに外来では育児や予防接種相談などの子育て支援にも取り組み、地域の小児医療の中心施設として、安心感を与えることのできる医療の提供と子どもの代弁者（アドボカシー）としての活動を行っています。

小児科
Pediatrics

リハビリテーション科
Rehabilitation



主任教授

長谷 公隆 HASE Kimitaka

病気や手術などで生活するための能力が低下した患者さんに対して、歩く、食べるなどの機能を回復させるリハビリテーション治療を提供します。理学療法や作業療法、言語療法など、患者さんの状況に応じた最適なリハビリ方法を選択しています。また、動きや痛みの問題については、運動学的・神経生理学的データや検査結果に基づく治療を提供したり、動作を客観的に分析・観察して治療を必要とする異常を早期に発見したりと、多彩なアプローチによって取り組んでいます。

主任教授

上林 卓彦 KAMIBAYASHI Takahiko



麻酔科は手術麻酔管理と総合集中治療、ペインクリニックを柱として運営しております。麻酔管理については末梢神経に局所麻酔薬を作用させて痛みを防ぐ区域麻酔や、心疾患に対する高度な手術を可能にする心臓血管麻酔、難度の高い呼吸器外科手術にも対応できる呼吸器外科麻酔、子どもの麻酔管理に特化した小児麻酔、無痛分娩や帝王切開の麻酔などを担当する産科麻酔など、さまざまな分野のスペシャリストが在籍しています。

麻酔科
Anesthesiology



区域麻酔・ペインクリニック

Regional Anesthesia and Pain medicine

診療教授

中本 達夫 NAKAMOTO Tatsuo

超音波による正確な神経ブロックを用いることで、痛みの少ない術後管理を目指しています。外来診療では痛みセンターにおいて、ペインクリニックでの神経ブロックのみならず、薬物療法・心身医学療法・運動療法を組み合わせた多職種による集学的アプローチにより難治性疼痛に対する診療を行っています。

呼吸器外科麻酔

Respiratory Surgery Anesthesia

診療教授

萩平 哲 HAGIHIRA Satoshi



低肺機能の患者さんであっても、心臓など他の重要臓器に合併症を有する患者さんであってもできるだけ術後合併症を起こさないような麻酔管理を心掛けています。呼吸器手術に関しては小児症例もサポートしています。



主任教授 谷川 昇 TANIGAWA Noboru

関西医科大学附属病院の放射線科は画像診断科、放射線治療科、核医学科、血管造影 I V R 科の 4 つの診療科に分かれています。そのそれぞれに複数の専門医を配置しています。各診療科の独自性を発揮しつつ最先端の装置を用いて最先端の医療を提供すると同時に 4 つの診療科間で密接に連携を取りながら、各診療科からの多様な要望に対応しています。

核医学科 Nuclear Medicine

特定の組織に集まる放射性医薬品を投与し、その集まり具合を画像化することで病気を診断、治療します。PET やガンマカメラを用いて、正常な組織と、病気の組織とを見分けます。血液検査やレントゲンでは発見できない病気を見つけたり、手術の際にどこまで切り取る必要があるかを判断したりと、正確な診断・治療を実現します。



画像診断科

Diagnostic Imaging

病院准教授

黒川 弘晶 KUROKAWA Hiroaki

病院教授 本多 修
HONDA Osamu

体の内部や手足、骨、乳房などの X 線撮影（レントゲン）、胃・小腸・大腸などの造影をはじめ、コンピュータを活用して体の輪切り画像を撮影する CT や MRI を中心に、病気の原因や状態を探るための画像を撮影する部門です。がんなどの早期発見はもちろん、病気がどの程度進行しているのか、どんな治療法が適しているのかなどの判断を助ける材料を提供します。他診療科の会議にも参加し、撮影結果をもとに治療方針の決定をサポートしています。



放射線治療科

Radiotherapy

診療教授

中村 聡明 NAKAMURA Satoaki

頭頸部や膀胱、肺、前立腺などがん、脳腫瘍に対して IMRT（従来よりも高精度に、悪性腫瘍に集中的に放射線を照射する方法）による治療を行い、患者さんの負担の少ない「切らない治療」を提供します。また、これまでは困難といわれてきた膀胱がんの放射線治療にも積極的に取り組み、全国でも有数の診療実績を蓄積しています。くわえて、外科系診療科やがんセンターとも緊密に連携し、領域横断的にさまざまな角度からがん治療にアプローチしています。



血管造影 I V R 科

Interventional Angiography (IVR)

病院教授

狩谷 秀治 KARIYA Shuji

IVR とは、最新の画像診断装置を用いて体内を画像化したうえで、カテーテルなどの器具を挿入し切らずに行う画像ガイド下低侵襲治療です。子宮筋腫などの良性の病気から癌治療まで広い分野で症例数が多く、在籍医師の経験が豊富です。従来の開腹手術と比較して患者さんへの負担が軽く、術後の回復も早いのが特徴。画像を見ながら手技をするので、確実な患部の治療が可能です。

臨床検査医学科

Clinical
Laboratory
Medicine

センター教授

神田 晃 KANDA Akira

臨床検査医学センターでは、患者さんの体液や排泄物に含まれる成分を分析したり、心電図や脳波検査などの生理機能検査を行ったりしています。診断および治療に欠かすことが出来ない検査データを提供し、診療業務に幅広く貢献しています。また、他の大学病院に先がけて、臨床検査に関する国際規格である ISO15189 の認定を取得しています。精度管理を徹底し、迅速に正確なデータを提供できる事が出来るよう、努めています。

病理診断科

Diagnostic
Pathology

主任教授

髙 幸治 TSUTA Koji

患者さんから採取した細胞を観察し、疾患や原因を見定める病理診断、細胞診を実施しています。手術中に患部を取りきれたかどうかなどを判断する術中迅速診断や、亡くなられた原因を解明する病理解剖も担当。多種類の免疫染色などを実施して、治療方針の決定に直結する情報を提供します。当院には、5名の常勤専門医が在籍しています。診断や手術の正確性、効果性を限りなく高める存在として、迅速で確実な病理診断を心掛けています。

附属病院概要 令和 5 年 4 月 1 日現在

| 病院概要

名称	関西医科大学附属病院
病院長	松田 公志
開設	平成 18 年 1 月 1 日
病棟 / 病床数	22 病棟 / 751 床
診療科	47 科
手術室数	19 室
看護種別	一般看護配置 7 対 1

| 施設概要

敷地面積	31,611.88㎡ (9,563 坪)
建築面積	9,849.56㎡ (2,979 坪)
延床面積	71,851.19㎡ (21,735 坪)
構造	鉄筋コンクリート造 (免震構造)
階数	地下 1 階、地上 13 階、塔屋 2 階
高さ	67.024 m
駐車台数	492 台

| 病院 WEB サイト

<https://www.kmu.ac.jp/hirakata/>



施設紹介

13F	講堂 合同カンファレンスルーム	レストランのぞみ											
12F	N 消化管外科、脳神経内科 放射線科、内分泌内科	S 消化器内科、消化管外科、整形外科 耳鼻咽喉科、呼吸器腫瘍内科 肝臓外科、胆膵外科 特別病室	中央診療部門										
11F	N 女性診療科、乳腺外科 リウマチ・膠原病科 消化器内科	S 腎泌尿器外科 腎臓内科	診療部門（外来）										
10F	N 耳鼻咽喉科 整形外科 歯科・口腔外科	S 眼科 脳神経内科	診療部門（病棟）										
9 F	N 消化器内科 脳神経内科	S 消化器内科、消化管外科 肝臓外科、胆膵外科	店舗など										
8 F	N 脳神経外科 形成外科、皮膚科 心療内科	S 血液腫瘍内科 呼吸器腫瘍内科											
7 F	N 呼吸器腫瘍内科 呼吸器外科、心臓血管外科 呼吸器感染症内科	S 整形外科 リウマチ・膠原病科											
6 F	血液浄化センター N 循環器内科 腎臓内科 救急医学科	S 救急医学科、脳神経外科 脳神経内科 整形外科	屋上庭園										
5 F	N 総合周産期 母子医療 センター	母体・胎児 集中治療室 (MFICU)	新生児集中 治療室 (NICU)	新生児 回復室 (GCU)	分娩室 女性診療科	E 小児医療 センター	小児科 小児外科 女性診療科	形成外科 脳神経外科 消化器内科	こども広場				
4 F	N 総合集中 治療部	救命救急病棟 GICU	病理部	輸血・細胞療法部	中央手術部								
3 F	脳波検査室	がんセンター 緩和ケアセンター 臨床遺伝センター	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	脳神経内科 精神神経科 心療内科 脳神経外科	眼科	皮膚科 形成外科	腎センター 腎臓内科 腎泌尿器外科	女性診療科 生殖医療 センター					
2 F	内視鏡 センター	生理機能 検査室	中央 採血室	呼吸器 内科 呼吸器 外科	消化器内科 消化管外科 肝臓外科 胆膵外科	整形外科 術前クリニック 歯科・口腔外科 痛みセンター	血液腫瘍内科 乳腺外科 総合診療科 アレルギーセンター	内分泌内科 糖尿病科 リウマチ 膠原病科	こども館	循環器 内科 循環器 外科	ハート センター (CCU)	総合相談窓口 文書窓口 サービス カウンター	コーヒー ショップ
1 F	総合リハビリ テーション センター	健康科学 センター	核医学 検査室	中央 放射線部	高度救命救急センター 救命救急外来	医療安全 管理部	医療福祉相談/ がん相談支援センター	入院センター 防災センター (警備室)	コンビニ 美容室 ATM				
B1F	放射線治療部	薬剤部	管理・運営部門										

院内アメニティ



やすらぎ文庫 1階

院内図書館。毎週水曜日に各病棟をまわる「移動図書」も行っています。
開室時間 9:00～17:00



コンビニエンスストア 1階

日用品の他に、衣類やガーゼ、おむつなどの販売も行っています。
営業時間 24時間・無休



枚方信用金庫 ATM 1階

お預入れ、お引出し、お振込みなどがご利用いただけます。
利用可能時間 8:00～21:00



美容室 1階

営業時間 9:00～17:00
定休日 日曜日、第2・4土曜日
祝日・月曜日



コーヒーショップ 2階

営業時間 平日 7:00～20:00
開院土曜日 7:00～18:00
休診日 9:30～18:00



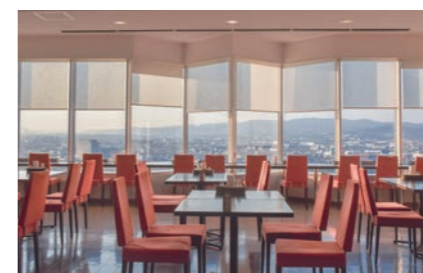
ホスピタルアートギャラリー 2階

アート作品を展示しています。色彩の美しさを感じられる展示作品により、癒しの空間を提供しています。



屋上庭園 6階

6階には、屋上庭園が広がり、枚方市内を一望できます。ベンチや花壇も設置されており、憩いの場として利用されています。



レストランのぞみ 13階

周辺を一望できる展望レストラン「のぞみ」では食事や喫茶を楽しめます。
営業時間 平日 11:00～16:00
開院土曜日 11:00～15:00



淀川河川公園 (院外)

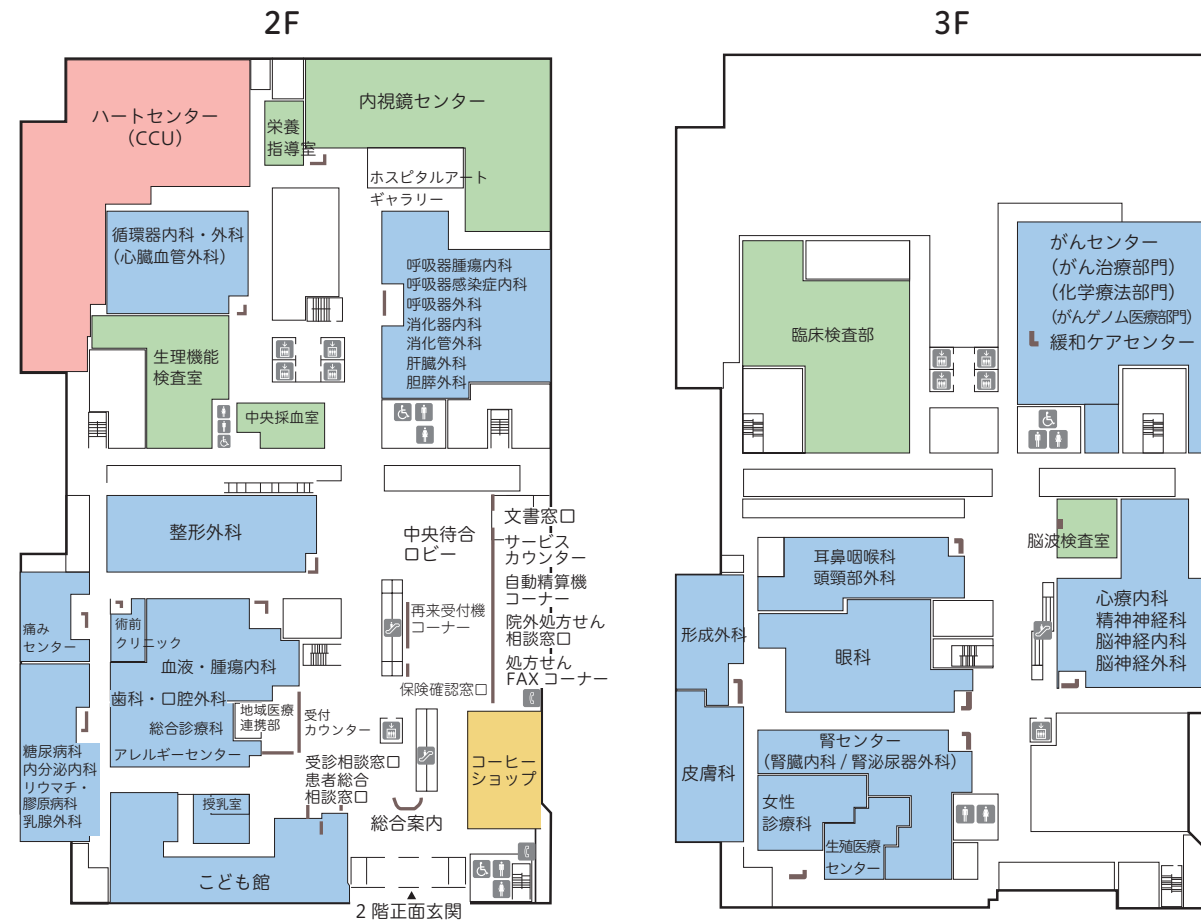
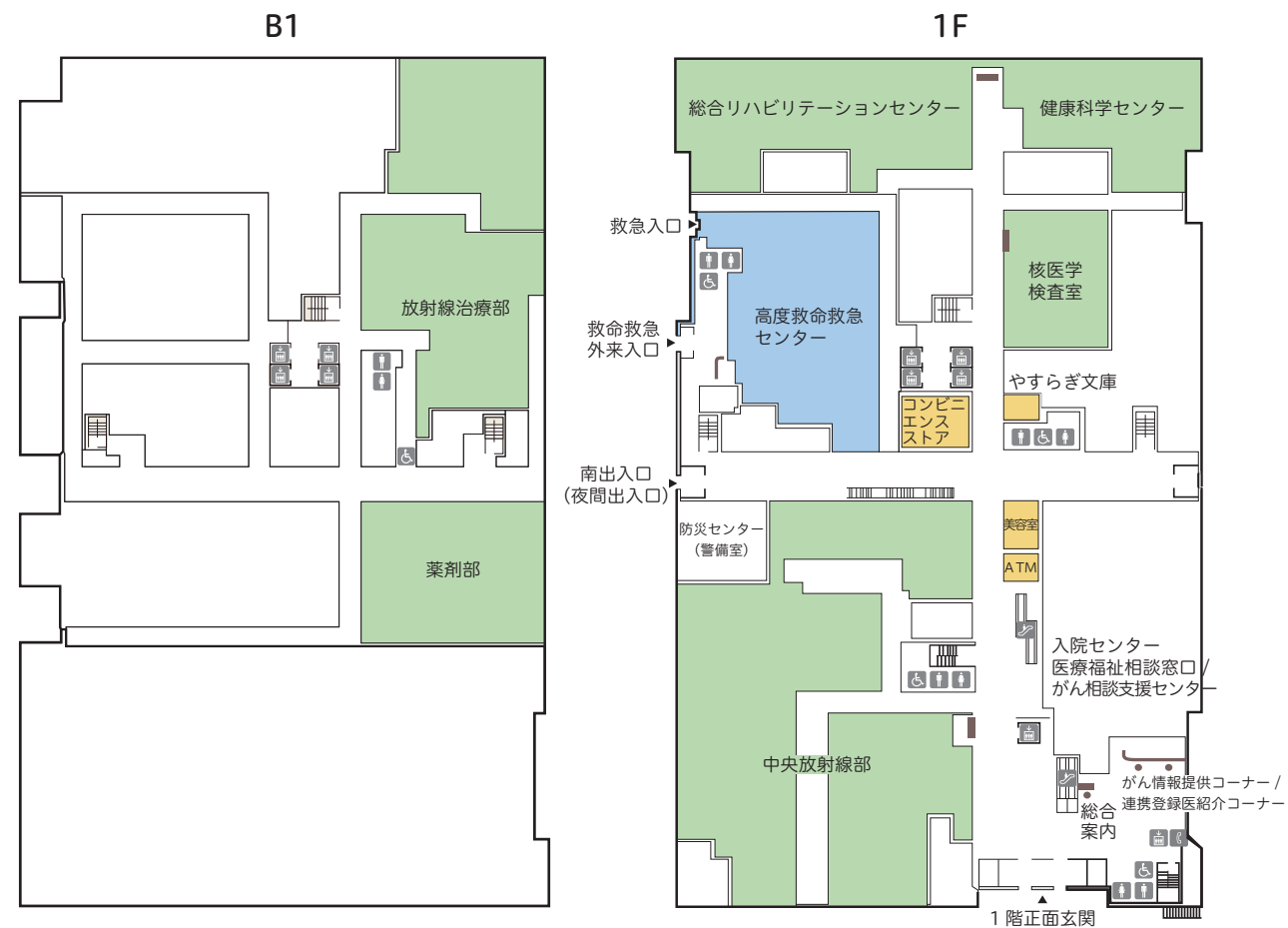
リハビリのための利用ができるようにアプローチが考えられています。河川公園へのスロープはバリアフリーとなっており、手すりもつけられています。



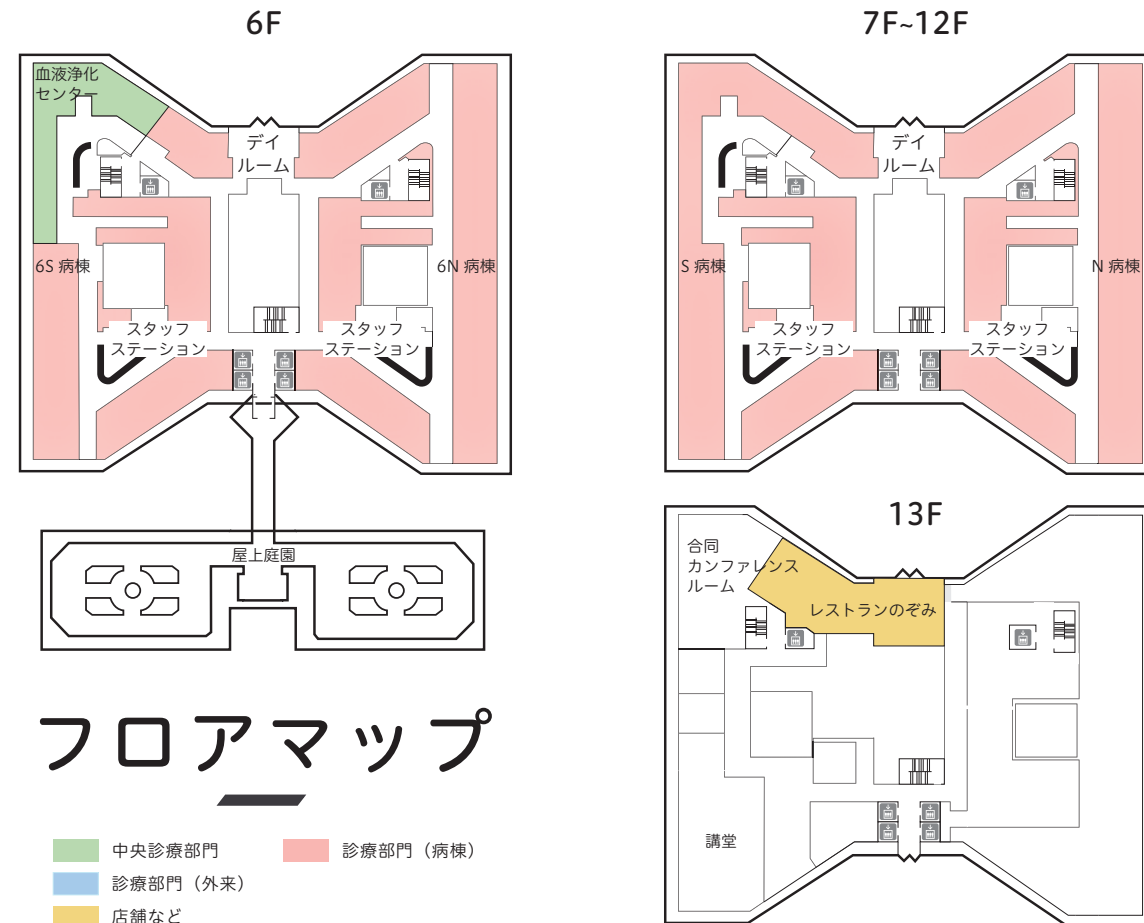
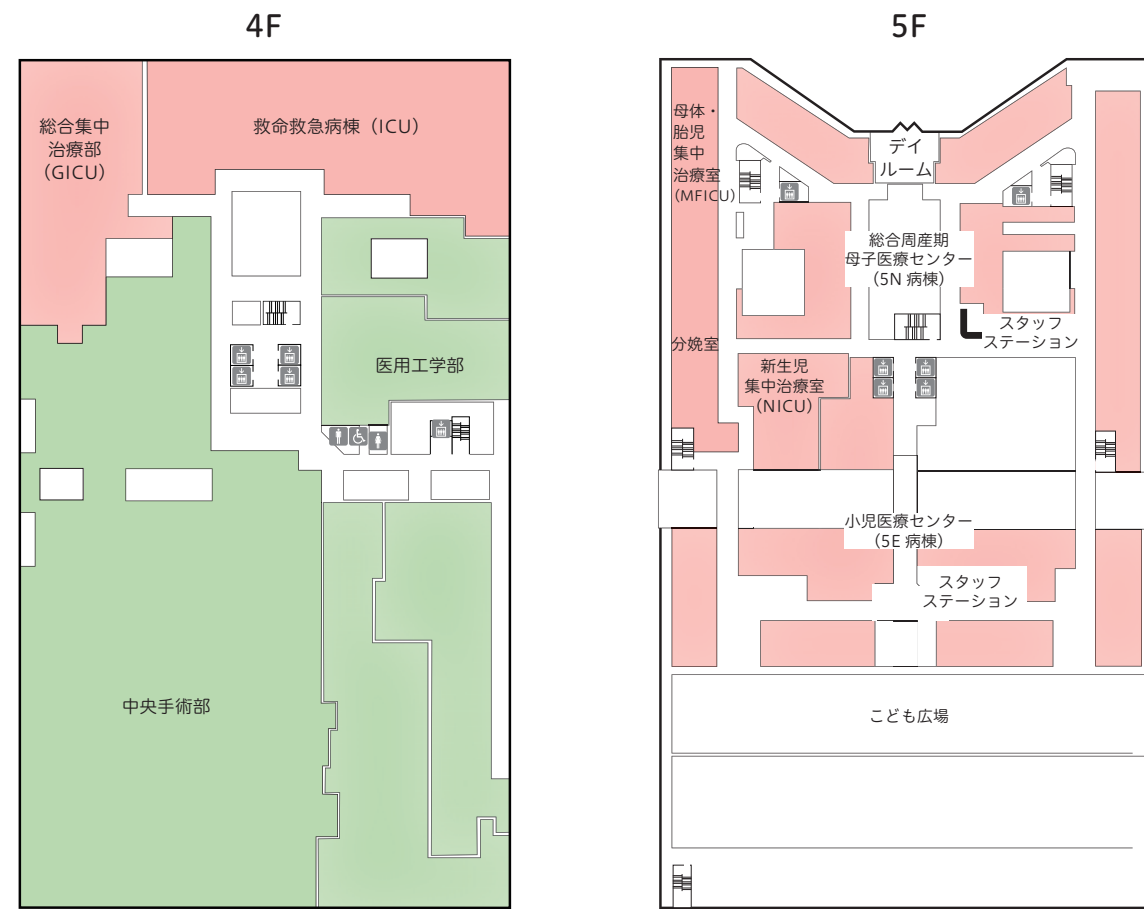
交流センターラウンジ

どなたでもご利用いただける無料の休憩スペースです。
Wi-Fiを完備しており、呼び出し受信機にも対応しています。

営業時間
平日 7:45～20:00
第1・3・5土曜 7:45～16:00



Floor Map



フロアマップ

- 中央診療部門
- 診療部門 (病棟)
- 診療部門 (外来)
- 店舗など

Floor Map

アクセス



■ 新大阪駅から



■ JR 大阪駅から



■ 京都駅から



■ 大阪（伊丹）空港から

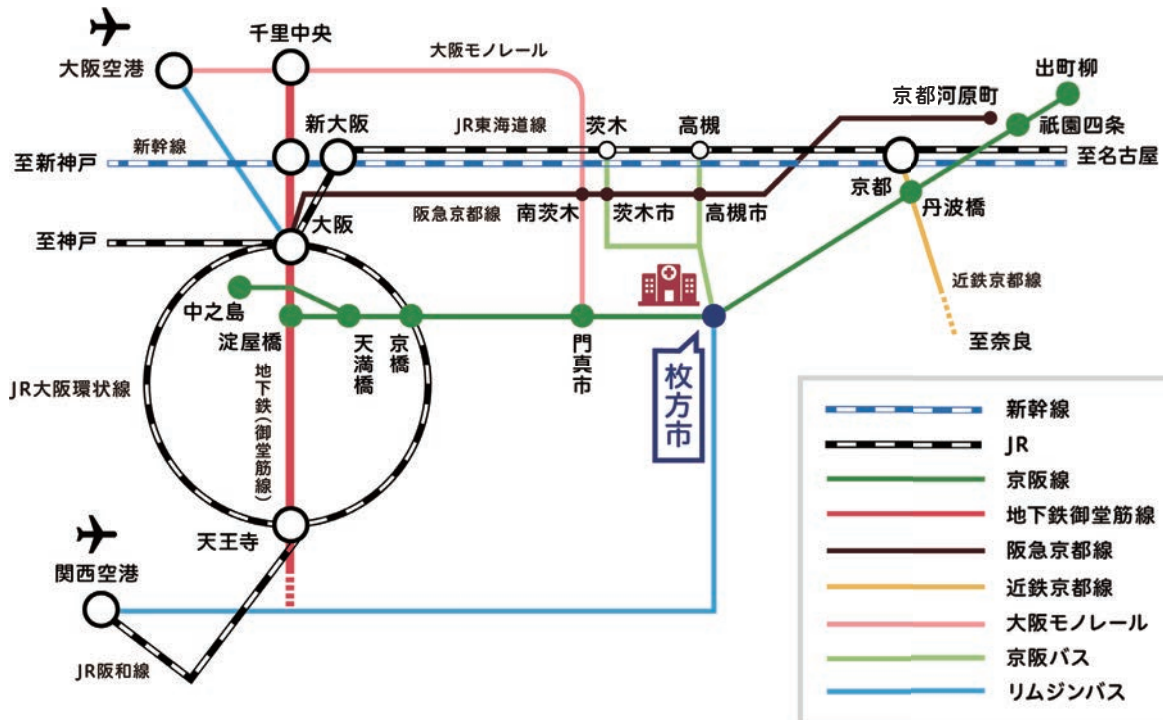


■ 関西空港から



□ 京阪枚方市駅から徒歩 3 分

□ 枚方市駅北口バスターミナルから無料シャトルバスを運行しています
時刻表はバス・病院内にて配布。病院ホームページにも掲載しています。



初診・再診受付時間 8:30～11:30

休診日 第2、第4土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1 TEL 072-804-0101 FAX 072-804-0131

2023.7月発行